

2019年10月1日

本学大学院生が日本学術振興会特別研究員に採用内定

本学大学院医学系研究科(生命科学専攻)博士後期課程 2年の石川瑞穂さんが、日本学術振興会令和2年度特別研究員(DC2)に採用が内定しました。

この「特別研究員制度」は、わが国トップクラスの優れた若手研究者に、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保を図る制度です。採用には、「研究者としての能力、将来性」「研究計画」「研究業績」の3つの観点で審査され、若手研究者のキャリア形成の第一関門とも言える制度で、昨年度のDC2採用率は19.8%の狭き門となっています。

石川さんの研究テーマは、「MTA1-S100A4 相互作用を標的とした新規血管新生阻害剤の探索」(審査区分:医歯薬学、受入研究者:尾崎充彦 准教授)で、自身が世界に先駆けて明らかにした血管の管腔形成分子メカニズム (Ishikawa et al. *Oncogene* 2019) を標的とした新規血管新生阻害剤の探索を目指すものです。